環境パートナーシップちば
だより
―つながれ ひろがれ―

第１３８号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

第２回 ESD/SDGs 理解促進公開セミナー

■日　時　2021年３月14日（日）９：30～11：30
■会　場　千葉市生涯学習センター小ホール ＆ Zoom（オンライン）
■参加者　４２名（千葉市会場：20名　　zoom：22名）
■次　第　Ⅰ部　SDGs/ESD活動の3年間の報告とこれから
　　① 2020 年 ESD プログラム作成を通しての担い手育成の報告
　　② プラットホームづくり活動 2020 年実験プロジェクト報告
　Ⅱ部 「SDGs/ESD3 年間の活動を踏まえて、今後の方向性の提案」
　意見交換 千葉市会場・zoom 会場より

■内　容

Ⅰ部では、「SDGs 達成のための ESD 地域リーダー担い手育成事業の報告とこれから」を桑波田代表から、３年間（2018 年～2020 年）の３本柱に沿って報告がありました。ESD の視点を入れた環境プログラムづくりを通して、ESD 地域リーダー育成、SDGs を進めるプラットホームづくりが実働するプラットホームづくりを目指したこと、SDGs/ESD 理解促進のためのセミナー開催と情報の収集・発信という内容でした。

また、今後３年間で県内に３つの地域拠点をつくり、SDGs/ESD プラットホームちばが SDGs 達成へと向かっていくこと、2021 年は千葉県南部地域でひろげる場づくり・人づくりを目指すことをお伝えしました。

①では、2020 年 ESD 地域リーダーの前川鎮男さんより、プログラムづくりからいただいた多くのアドバイスと地域のつながりを財産に今後活かしていきたいこと、藤平健太さんからは ESD の視点から自分の授業実践を見直すことができた、NPO の方々と知り合うことができたとの発表がありました。

②では、実働に向けた 2020 年実験プロジェクトの報告が４グループからありました。山内可奈子さん・松本さやかさん「ユースと地域で作るサステナブルな未来」、小倉久子さん「自然に学ぶ」、島野圭司さん「学校との連携」、江崎亮さん（Zoom）「やってみよう！ESD プログラム」、という次への意気込みが感じられる各々の発表でした。

Ⅱ部では、３年間通してファシリテーターを担っていただいた石井雅章氏（神田外語大学）から、学ぶことの目的を大事にしてきた３年間を振り返りながら、時代の変遷と学びの関係、持続可能な世界のための担い手として生涯学び続けること、学びゆたかな人生・社会をつくるプラットホームなど、短い時間とは思えない多くの示唆に富んだお話をいただきました。

意見交換では、桑波田代表の進行で、会場意見や Zoom から、この３年間に関わっていただいた方々にご意見を頂戴し、今後につなげるご協力のお願いをして閉会といたしました。

（文責：横山 清美）

会場の様子

石井氏お話しの画面

第３回プラットホームづくり会議

■日　時　2021 年 1 月 25 日（月）13：00～16：00
■会　場　オンライン（zoom）
■参加者　27 名（ファシリテーター含む）
　　ファシリテーター：石井雅章氏（神田外語大）
■次　第　・実験プロジェクトグループワークの進捗状況報告と意見交換
　　・３月 14 日公開セミナー企画案への意見交換
■内　容　緊急事態宣言中のため、会議は zoom で開催。10 月 26 日の実験プロジェクトのワークショップのその後の進捗状況を４グループより報告しました。次年度実施できるように、各グループで内容を進め、３月 14 日の第２回公開セミナーで発表するとしました。
また第２回公開セミナーの開催内容の企画も皆で検討しまし内容を決めました。
１月 25 日以降の実験プロジェクトの進め方は、各グループごとに、メールや Zoom などを活用して内容を詰めました。年度末の多忙な中でしたが、情報を共有することが重要と思いました。

（文責：桑波田 和子）

2020 年度：ESD 地域リーダー研修会
― ESD モデルプログラムの実践状況を学びあう会 ―

■日　時　2021 年２月 22 日（月）13：00～15：30
■会　場　Zoom 開催（メインスタジオ：いすみライフスタイル研究所）・参加者：Zoom
■内　容　ESD プログラム実践者から、実践した状況・工夫・効果等を聞き、地域リーダーの活動のヒントにする。
■次　第
Ⅰ部　「田んぼと里山と生物多様性」プログラムから
手塚 幸夫 氏（2018 年度 ESD 地域リーダー）
内容：
・いすみ市の学校給食の有機化と教育ファーム
・多様な主体の連携
・コロナ過で実施しできたこと
・動画紹介（活動フィールド）
・民間ベースのサポート　いすみライフスタイル研究所　江崎　亮氏
Ⅱ部　ESD 地域リーダー意見・情報交流
・2020 年度実施事例報告：「親子で学ぶ SDGs /ESD」 2019 年度 ESD 地域リーダー武田みどり氏：八千代市ほたるの里づくり実行委員会）
■内容
ESD 地域リーダー研修会は、各自が作成した ESD プログラムを実践した結果報告を通してお互いが研修する会として１年に１回開催してきました。2020 年度は、コロナ禍で実施できない状況が多い中、いすみ市の小学校の取り組みについて 2018 年度地域リーダーの手塚さんに報告をしていただきました。
　一方、プラットホームづくりの実験プロジェクト「モデルプログラムの活用」グループとも連携し、手塚さんのプログラム実践をオンラインで紹介するためにプログラム実施場所を取材し、動画として２月 22 日の研修会に配信し、参加者で共有しました。
　手塚さんの報告から、2020 年度はコロナ禍で、活動が厳しい中、長者小学校の校庭で、ダンベ（容量：田んぼの土 200kg）で、田植えから米の成長と生き物が観察できたこと。実施できたのは、学校の理解と協力できる信頼関係ができていたこと。また、これまでの手塚さんの活動が多様な人とつながり、市役所農政課や学校の先生、また NPO いすみライフスタイル研究所などとも連携して広がり、お互いの信頼が強くなりここまで展開出来ているということが、よく分かりました。参加者からは、プログラム実施現場を動画で見ることができたこと、持続可能な地域づくりへの思いを持ち続けて活動していくことが多様な人とつながって展開していくということを強く感じたなどの感想がありました。情報交流では、手軽に使える「コンポストバッグ」に関心がわきました。

（文責：桑波田 和子）

取材の様子

いすみ会場

ESD 地域リーダー育成事業 2020 を終えて

2020 年度の ESD 地域リーダー育成事業は、南房総会場（とみうら元気倶楽部）と市原会場（市原サンプラザ）にて、石井雅章さんのファシリテーター、17 名の参加者と 21 名のサポーター・スタッフで実施し、16 の ESD プログラムを作成しました。

残念ながら、1 月 25 日に予定していたプログラム発表会は、石井さんからのビデオコメントに変更になりましたが、いただいたコメントで内容を高め、「ESD プログラムガイドブック 2020」としてとりまとめました。この「だより」と一緒に、みなさんのお手元にお届けしているはずですので、ぜひご覧になってください。（2018 年度版、2019 年度版も環境パートナーシップちばの HP でご覧になれます）

３年間で 44 の ESD プログラムができ上がりました。でき上がったとはいえ、どのプログラムもこれからさらに発展する可能性をもっています。実践して更なるブラッシュアップをしながら、SDGs 達成に近づいて行きましょう。

（文責：小倉 久子）

ESD地域リーダー人材育成のための

「ＥＳＤプログラム」ガイドブック
2020年度版

出典：文科省 HP

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば（略称 NPO環パちば）

この事業は、令和２年度地球環境基金助成金の助成を受けて実施しています

ESD 地域リーダー育成事業に参加して

ガールスカウト千葉 83 団　大境順子

９月の公開セミナーで大塚明先生の話を聞き「何かをすることより、一人一人の心の成長が大事なのではないか？」と感じたところから、自己肯定感を上げるとか、自分ごととして考えるということに囚われてしまい、私のプログラムが絵空事に見えてしまいました。石井先生のアドバイスで「楽しく体験すること」で少しずつ自分ごととして感じられるようになるのではと思い始め、やっとやっとプログラムが出来上がりました。

この事業に参加して、プログラムを作る上で大切なことは何かという事を学びました。想いや目標はもちろんですが、出来上がったプログラムを発展させたり、地域との関連性を考えたりすることによってプログラムが輪になって広がっていくことに気づきました。

また、SDGs・ESD の視点を持った担い手として、さまざまな出来事を「自分ごと」として感じ、仲間たちと一緒に「私たちは何が出来るか」を考え行動していきたいと思います。

コロナ禍のため一堂に会し発表会ができなかったことは残念ですが、参加された皆さんとこれからもつながり、共に活発な活動をしていけることを願います。

地域リーダー育成事業に参加して

アースドクターふなばし　岡 広光

この事業に参加できて本当に良かったと思っています。ESD というのは言葉くらいしか知らなかったのですが、初日のセミナーで「知識の量より活用できる力をつける」という説明に大いに刺激を受けました。総合学習等で実施する地球温暖化の新たなプログラムでしたが、ファシリテーターの石井さん始めサポーターの皆さんからのアドバイスを受けて修正していく内に、自分でも納得できるものに仕上がったかなと思っています。

作成したプログラムシートに従って、実際のスライド（約 30 枚）を作成し自団体へ披露した後、３月度の中学校の校長会で、短時間でしたが自信を持って紹介しました。６月には中央公民館での本番が予定されています。既存のプログラムも必要に応じて、ＥＳＤの視点を入れたプログラムに変更したいと考えています。

また、この機会に今までなじみが薄かった生物多様性などの知見を得ることができ、有意義な研修であったと実感しています。

『若者と語り合う印旛沼』に参加しました

2020 年 12 月６日（日）に（公財）印旛沼環境基金の助成を受けて、オンラインミーティング『若者と語り合う印旛沼』が開催されました。

環パちばの活動計画の一つに“印旛沼をきれいにする”ことがあります。印旛沼は、私が住む千葉市の水瓶ですが、よその地域の水道水と比べて千葉市の水は美味しくないなと思う時がたまにある程度で、普段は印旛沼を思い出すことがありません。

今年度は千葉県の「印旛沼流域環境・体験フェア」もなく、ナガエツルノゲイトウの駆除作戦に大きな協力をしている「NPO 法人国際ボランティア学生協会（IVUSA）」の若者と一緒に印旛沼について語ろう、というユニークな企画が、今回のオンラインミーティングでした。

私は Zoom の利用が初めてだったので、自宅で会議参加までの準備にいろいろと手間取りました。背景にも苦心しましたが、なんとか間に合いました。

まず第１部で、琵琶湖の総合保全に携わっておられる滋賀県琵琶湖環境科学研究センターの佐藤祐一さんから、琵琶湖での活動の様子の話を伺いました。「なぜ市民参加はうまくいかないのか」というテーマで、活動計画と参加する市民の“心のモチベーション”のバランス感覚、「主体性」の在り方が大切な要素、ということでした。

第２部は、学生さんがファシリテーター役となり、グループごとの「印旛沼について語り合おう」に展開しました。私は準備無しで参加してしまったので「語り合う」ことが少し難しかったというのが本音です。学生さんから見れば、印旛沼に疎い私でも“地元の人”となるのか、という新しい発見がありました。

IVUSA は学生さんなので今後はさまざまな進路を進まれると思いますが、これらの環境活動は、彼らの人生の若かりし日の１ページになることでしょう。私を含め“普通の人”がときどき印旛沼を思い出して、その環境に思いを馳せるという文化のベースを醸成することも大切なのだと、ふと思う機会になりました。

（文責：中村 明子）

関東 ESD 推進ネットワーク
第４回　地域フォーラム「ユースと進める SDGs」参加記

松本　さやか（ESD 地域リーダー）

令和３年１月 24 日に標記フォーラムがオンラインで開催され、参加しました。

【全体会】令和２年度の SDGs 文化祭で高校生が実施した取り組みを紹介し、各分野の実践者がコメントしました。

① SDGs 絵本で伝えるチーム：「誰も取り残さない」というメッセージを「言葉を知ってもらう」から「内容を知ってもらう」ための工夫をした。

② 国内の外国人支援チーム：プラスチック問題、富士山と防災教育、外国籍児童の学習支援 の３つのグループで活動をした。

③ エコファッションチーム：ファッション業界における環境問題を高校生目線で発信し、リユースを日常生活の一部として楽しむしくみ作りをした。

SDGs 文化祭を始めた背景には、SDGs に関心のある中高生は、「意識高い系」などと言われ、校内では仲間がほとんどいない。また、発表する場も少ないことがあり、それを踏まえて

・仲間の少ない中高生をつなげ、積極的に SDGs を学ぶ機会を提供する。

・大学生のメンター制という、学校種を超えた新しい協働の学びを促進する。

・生徒主体の発信にこだわり、あえて賞は設けず、あくまでも取り組んだことを評価する。

などが特徴となっています。ユースの目線に立つことを徹底し、細部に配慮が行き届いたプログラムで、参加者は安心して取り組めたに違いない、と感じました。

【分科会】私は「ファッションと SDGs」に参加しました。SDGs というと課題が先行し、苦しくなってしまうことが多いが、「部活や塾に行くように、タピオカドリンクを飲んだりプリクラを撮ったりするように」SDGs に取り組む世界を作りたい、と企画した高校生が目を輝かせていたこと、またメンターの大学生から「好きなものと結びつけるといい」というアドバイスがプログラム発展のきっかけになったという発言が大変印象的でした。

＊**メンター制**：メンター（先輩）とメンティ（後輩）が１対１で決められ、経験豊かなメンターが指導・助言を行う制度。

千葉県温暖化防止活動推進員等研修会に参加して

2020 年 10 月に、一念発起して千葉県温暖化防止活動推進員（以下、推進員）の登録を申し込み、推進員の要件である標記研修会に参加しました。

研修会は2月 10 日と2月 25 日の２回に分けてそれぞれオンライン（Zoom）で開催され、私は第１回目に参加しました。内容は推進員による活動事例の発表と推進員間の情報交換でした。

第１部の活動事例紹介では、① エコネットかまがや、② 温暖化防止うらやす、③ エコライフ推進の会、④ エコマリン大網、⑤ エコライフあびこ、⑥ edf アースドクターふなばし、⑦ エコライフやちよ　の７団体から発表がありました。

７団体からは、いろいろな視点や手法で温暖化防止活動を行っている様子が報告されました。多かったのは、子供への働きかけ（出前授業、夏休み環境学習など）、イベントでの市民へのアピール（体験も含む）、ゴーヤカーテン、市民向け講演会、会員研修会・見学会などで、そのほか、市長との懇談会、市民発電プロジェクト、桜の開花時期調査という報告もありました。どの団体も 2020 年はコロナ禍のために苦労なさっていて、オンラインを活用している団体もありました。

第２部の情報交換会では、いま問題となっているプラゴミと地球温暖化を結び付け、プラスチック製のストロー、スプーンやカップの使用をやめるような働きかけをしよう、という提案がありました。

この日は最後まで 100 名を超える参加者があり、みなさんがとても熱心に活動されていることがよく分かりました。新米推進員も早く一人前になれるよう、勉強します。　（文責：小倉 久子）

環境教育関東ミーティング　オンライン座談会が開催されました

毎年行われてきた環境教育関東ミーティングですが、2019 年度（2020 年２月 29 日・３月１日）は新型コロナウィルス感染拡大の影響を考慮して中止となりました。そして、今後の関東ミーティングの在り方も含めて実行委員で度重なる議論をしてきた結果、今年度は 2021 年度につなげるために、開催地となる予定だった千葉県内で活動している方々を招いて、３回シリーズのオンライン座談会を開催することになりました。

第１回目は２月 15 日(金)19 時から、千葉市内でプレーパークを運営している相澤孝紀氏と、ヤックス自然学校のディレクター富田拓郎氏をゲストに招き、ファシリテーターとして荒川が参加して行われました。

定員 30 名がすぐにオーバーになってしまったため定員枠を外して受け入れた結果、約 90 名の応募があり、関心の高さがうかがわれました。

当日は 60 名余りの参加があるなか、まずはお二人それぞれの活動を思う存分紹介していただき、その後の座談会では、自然環境で子どもたちが活動する意義、子どもと関わるときに何を意識して何を大切にしているか、さらに経営面など、普段なかなか聞くことのできないことも掘り下げて話していただきました。

終了後には、残ってくださった20名余りの方々と熱い想いや感想を共有することができました。感想等については後日、何らかの形でのご提供を考えています。

オンラインならではの課題も残りましたが、次回以降に生かしたいと思います。年度明けになりますが、第２回：「増え続ける獣たち　対策と利活用を考える」、第３回「自然環境を守ることと人の営みとの関係について考える」をテーマに開催いたします。ぜひご参加ください！

（文責：荒川 薫）

地域 ESD 活動拠点オンライン研修会参加報告

関東地方 ESD 活動支援センター（関東 EPO）の活動拠点登録団体のオンライン研修会が 2021 年２月 25 日に開催され、NPO 環パちばから桑波田、横山、小倉の３名が参加しました。「関東地方」というのは関東甲信越の各都県で、今回は群馬、千葉、東京、神奈川、新潟、静岡から、11 団体・14 名が参加しました。

環境省関東地方環境事務所の鈴木環境対策課長のご挨拶に続き、関東 EPO の島田幸子さんから「地域 SD 活動推進拠点の経緯、最近の状況」のお話がありました。地域拠点として知っておくべき知識、情報ということで、非常に内容の濃いお話でした。

事例紹介は次の３件でした。

・「市民向け SDGs 普及・啓発」　角田 亘 氏
（きりゅう市民活動推進ネットワーク）

2020 年 11 月に開催した SDGs 講演会「SDGs・ESD 活動を知ろう～ユースと作る持続可能なまちづくり～」の紹介で、ニーズおこしから開催準備、当日の様子、次のイベントへの発展などが報告されました。

・「学校との連携」　竹井 斎 氏
（認定 NPO 法人アクト川崎）

地球温暖化防止活動推進員とセンターによる小・中学校への環境出前授業や、「エネルギー・環境 子どもワークショップ in 川崎」、小学校で行われた SDGs フェスについて紹介されました。

・「SDGs ネットワーク」桑波田 和子 氏
（特非 環境パートナーシップちば）

「SDGs を達成のための ESD 地域リーダー担い手育成事業」を紹介しました。地域リーダーを育成し、その活動の場としてのプラットホームの必要性を共有し、プラットホームづくりへと発展させていることを報告しました。

質疑では環パちばの発表に対して、プラットホームづくりのアプローチの仕方がユニークであるというようなコメントもいただきました。

（文責：小倉 久子）

「道の駅とみうら枇杷倶楽ホームページより」

みんなで創ろう！SDGs！Part2 参加報告

昨年 11 月１日（月）にエコメッセ 2020in ちばの同時開催企画として実施された千葉県主催のオンラインセミナー「みんなで創ろう！SDGs！」の第２弾が”環境・経済・社会的課題の同時解決”という副題で 2021 年３月７日(日) 15 時から開催されました。前回のセミナーに続いてひとりひとりができることを見つけ出し、他者と連携・協働しながら実現・実践するきっかけになるように、今回のセミナーでは分野別のブレイクアウトセッションが用意されました。

第１部では「SDGs の本質をとらえ、千葉の未来を構想、そしてその先へ」という題で佐藤真久氏（東京都市大学大学院環境情報学研究科教授）が講演を行いました。

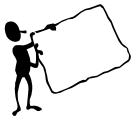
第２部 ブレイクアウトセッションでは、「語ろう！挑もう！環境・経済・社会的課題の同時解決！」という題で５つのテーマ「気候変動・エネルギー、循環型社会（廃プラ・食品ロス・リサイクルなど）、野生生物の保護と適正管理、ESD・環境学習、エシカル消費に分かれ、ファシリテーターと一緒に 10～30 人くらいのグループに分かれて、参加者同士で話し合う場が設けられました。参加者はチャットなどの機能を利用して相互に意見を出し合える場となりました。

第３部 共有セッションでは「ブレイクアウトセッションの知恵を集めて未来につなげよう！」という題で各グループのファシリーターを中心に議論した結果を発表し合い、議論を深めるとともに、多様な分野の人達の意見や情報を共有する場となりました。

チャットでやり取りする中から参加者間での協働の提案が行われ、オンライン型のイベントでも新たなコラボレーションが生み出されてくることが感じられるセミナーとなりました。

（文責：谷合 哲行）

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　59　―
おききしました！　この人・この団体



温暖化防止うらやす

代表　川島 謙治

温暖化防止うらやすは、2007 年８月 14 日に千葉県温暖化防止活動推進員が『浦安地域における市民、企業、行政と連携し地球温暖化防止活動の促進と普及を図る』を目的に設立しました。その後、浦安市民大学環境講座卒業生や市民が加わり、『地球とこどもたちの未来のために』をスローガンに活動を行っています。

環境問題は広範にわたり、地球温暖防止活動にもさまざまなアプローチがあります。会員それぞれにキャリアがあり動機も関心事もさまざまであるため、それぞれの独自性を生かした『ゆるやかな運営』を基本に、

会員が学ぶ➡学びを活かす➡市民に知らせる
➡ともに行動する➡会員拡大

の好循環を目指して活動しています。

主な活動として、

①市内イベントの参加・出展：５月「環境フェア」、10 月「市民活動フェスティバル」、

②環境学習実施：浦安市には環境部環境保全課が講師を学校・公民館に派遣する浦安市環境学習アドバイザー制度があり、登録された会員がそれぞれの環境学習プログラム作成し実施。

③市民公開講演会実施：著名な講師（国立環境研究所江守正多氏・五箇公一氏、故 C・W・ニコル氏他）をお迎えして市民啓発を実施。

④市民意識アンケート調査：WEB を活用した市民の環境に関する意識調査を実施し、結果をホームページで公表。

⑤浦安の気温動向調査：会員がそれぞれマイ標本木を設定し、毎年桜の開花時期の観測（東京の開花日より浦安は４日程度開花が遅い）。

⑥ホームページにより会員間の情報共有と市民へ情報発信。

等々を行っています。

2020 年度はコロナ感染防止のため残念ながら団体活動がほとんどできず、11 月に会員講師による『我が国のエネルギー将来計画』に関する公開勉強会の実施、12 月に『浦安市民活動フェスティバル 2020』にパネル展示と動画の参加をしましたが、市民との直接対話はできませんでした。

一方で 2020 年度は 7 月に浦安市は『2050 年ゼロカーボンシティ宣言』、10 月に菅総理が『2050 年 CO2 実質排出量ゼロ宣言』（カーボンニュートラル）、２月には千葉県が「2050 年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」という大きなトピックスがありました。

目指すは、温室効果ガス排出量を実質ゼロにすることです。実質炭素排出ゼロとは、排出量から吸収量（森林などの自然吸収量と人工的な回収・貯蔵）を差し引いた排出をゼロにすることです。これに伴い浦安市では望ましい環境像として『みんなでつくり、つなげる、環境都市うらやす（案）』を掲げて、第３次環境基本計画（2021～2030）と地球温暖化対策実行計画を策定中です。

浦安には残念ながら CO2 を吸収してくれる森林がありません。ゼロカーボンに向けて市民のできることは、①CO2 排出を減らす、②自然エネルギーに変える、を基本に、それぞれが工夫して行動していくことに尽きます。

２０２１年度 “温暖化防止うらやす”は、ゼロカーボン実現に向けて行政や市民と連携した活動を進めていきます。

環境フェア

市民活動フェスティバル

運営委員会報告

2 月度運営委員会
日時　2021 年 2 月 11 日（木）　15:00～18:00
会場　Zoom オンラインミーティング
【報告】
・印旛沼講演会『若者と語り合う印旛沼』（印旛沼環境基金助成事業）報告書提出
・関東 ESD 推進ネットワーク　地域フォーラム「ユースと進める SDGs」1/24　Zoom 参加
・かながわ環境カウンセラー協議会　1/24　Zoom 参加
・SDGs 達成するための ESD 地域リーダー担い手事業
・地球環境基金助成活動報告会
・環境教育関東ミーティング　2/15　・事務局会議　1/28
・会費未納会員への督促実施　・だより 137 号発送
【協議】
・SDGs 達成するための ESD 担い手育成事業
・地域 ESD 活動推進拠点　オンライン研修会　・総会

3月度運営委員会
日時　2021 年 3 月 17 日　9:30～12:00
会場　Zoom オンラインミーティング
【報告】
・SDGs 達成するための担い手育成事業
ESD 地域リーダー研修会　2/22
2020 年度プログラムガイドブック発行
第2回公開セミナー　～　SDGs/ ESD 理解促進～3/14
地球環境基金助成活動報告会 2/19 収録
・環境教育関東ミーティング　2/15　Zoom
・関東 ESD センター「地域 ESD 活動推進拠点オンライン研修会」2/25
・IVUSA との Zoom ミーティング　2/23　・その他
【協議】
・2021 年度事業計画
・総会にむけての実務の準備

特定非営利活動法人　環境パートナーシップちば（NPO 環パちば）

第４回通常総会ご案内

会員の皆様

いつも格別のご支援をいただきありがとうございます。

NPO 環パちば第４回（令和３年度）通常総会を以下の日程で開催します。

令和2年度の主要事業『SDGs達成のためのESD担い手事業』他の報告及び令和3年度事業計画について、会員の皆様のご審議およびご意見をいただきたく思います。ご多忙と存じますが、ご出席よろしくお願い申し上げます。

正会員の皆様には詳細を、4月末にご案内させていただきます。

新型コロナウイルスの動向が不明ですが、皆様には引き続きお気をつけてお過ごしください。

開催日時　令和3年5月23日（日）　12:50～15:00（開場 12:40）
開催場所　千葉市生涯学習センター　研修室（千葉市中央区弁天３丁目７番７号）

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標（SDGs）」や「持続可能な開発のための教育（ESD）」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。